

インターネットディスクを利用した若手教員の ための研修システムの開発と運営

学校名	東京教育メディア活用研究会
所在地	〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-11-35 目黒区立不動小学校内
職員数／会員数	20名
研究代表者	二見 美佐子



1. はじめに

東京教育メディア活用研究会は、東京都町田市立教育研究所のコンピュータ関係の研究委員だった小学校・中学校教員有志で、平成 15 年夏発足した。現在は他地区の教員、講師、若手教員も参加している。会の目的は、現在の社会の進展や情勢、児童・生徒の変化や課題に対応する小学校での情報教育のあり方を研究し、授業改善を図れる指導方法や、教材、資料を紹介し、協同で開発して利用することである。平成 17 年度には「ネット教育指導用パッケージ」を上月教育財団の助成を受け開発し希望校に提供した。また一昨年度、明治図書から改訂版「小学校ネット教育簡単ガイドブック」を発行し全国利用を可能にした。

会は若い会員を迎える一方で、定年退職を迎え OB として学校のサポートにまわるメンバーも出てきた。各校では、新規採用の若手教員や教員志望で講師などの形で学校に勤務する若い教員が、児童生徒・保護者・同僚という 3 つの人間関係や、価値観や行動の多様な子どもに合った実践・対応が課題で、苦悩の上退職や病気休職になるケースも急増した。予算削減で教員のための研究・研修会は以前と比べ大幅に縮小され参加もしにくくなった。さらに以前は日常的に論議し、伝えあっていた自作開発教材や実践方法の紹介などは、時間や環境さえなくなって激減している。このような厳しい学校現場の中で、「学校知的財産」ともいうべきベテラン教員の蓄積した実践に基づいた知識、技術等は、団塊世代の教員の退職とともに消滅しつつある。

会代表二見の勤務する不動小学校は、幼稚園を併設する都内目黒区の学校である。二見はここで若手教員と組んで 1 年生を担任し 5 年目を迎える。この実践も生かしていきたいと

考えた。

2. 研究の目的

研究のテーマは、インターネットディスクを利用した若手教員のための研修システムの開発と運営である。意図するところは、全国の若い先生へ、ベテラン教員の身近な形での「先輩からの情報提供」「持っている物、全部あげるよ、伝えたい。」と若手教員や若手講師の抱える課題の解決とを結びつけ、上記の学校の課題を解決していくことである。具体的な研究の目的は、若手教員の課題や疑問を収集し、これに伝える形で、会員がそれぞれ自己の持っている知識や実践資料などをデジタル化しインターネットディスク上に保存蓄積し、検索しやすく分類して提供すること、及びこのためのシステムの開発・運営である。

3. 研究の方法

(1) 若手教員・若手講師を対象にした情報収集

面接、茶話会、研究会、質問紙等の方法で若手教員が抱えている疑問、課題、苦悩などを収集する。

(2) インターネット媒体で提供する研修システムについて、内容、方法、分類の検討

上記(1)で得た情報や会員個々が抱えている若手教員の課題を中心にして、解決のための情報の提供の企画（内容、方法、分類の検討）をする。各会員の専門性を生かして担当を分担し、資料の提供方法についても検討する。

(3) インターネットディスクを活用したデータベース型の研修システムの構築と運営の検討・開発・試行

専門家の講話を聞き、インターネット上に模擬ディスクを作成し、デジタルデータを蓄積したり分類したり活用したりして試行する。

(4) 各会員によるデジタル資料の作成

個々の分担に応じた内容について、実践資料や教材、解説資料等をデジタル化し、サーバーに保存する。

指導・実践の方法や手順、出来上がった作品やワークシート、師範・提示などについて、具体的に分かる動画や写真データ、ワークシート、解説資料を作成する。

(5) インターネットディスク上に研修システムを構築し実際に試行・活用、情報交換、修正

各会員が作成した内容をインターネットディスクに分類して挿入する。若手教員からの質問や疑問のコーナーも作成し、解決のための資料とリンク付けをする。実際に各校や自宅で試行し、問題点を修正する。開発したシステムの運営や発展について検討する。

4. 研究の内容

(1) 若手教員・若手講師を対象にした情報収集

初任から3年までの教員約10人、講師約7人に、主に面接法で抱えている悩みや解決したい内容、ほしいと思う研修の方法や内容、実践のためにどのように情報を得ているかなどを聞いた。また5年以内に退職した元教員3人にも上記と同様の内容、及び退職した本音などを聞いた。面接は、ベテラン教員の会員が勤務地の区市で身近に接している若手教員や若手会員が中心だったので、毎月定例の区市の研究会で顔を合わせる都度、帰りにお茶を飲みながら実施したり、勤務校で日常的に相談にのったりという場合が多い。一人に対して数回から10回以上に及び、若手教員に質問をし、悩みや疑問の情報を得、次にそれに対して答えやアドバイスを送り、情報を提供し、その後の状況についてその効果を質問したり、実践を観察したりして支援しながら情報を得ていくという参加観察の手法に近い形の実施になったものもある。また、一緒に学年を組んだ若手教員の日々の支援・指導から、具体的に、何に悩みを感じ、苦手意識や自信喪失につながっているかといった点、授業観察や学年合同で児童の指導にあたる中で、教員として何を習得しなければならないのかといった本人も意識していない部分について、情報を得ることができた。

(2) インターネット媒体で提供する研修システムについて、内容、方法、分類の検討

(3) インターネットディスクを活用したデータベース型の研修システムの構築と運営についての検討・開発・試行

Yahoo や Google などの無料で提供するサービスの一つにインターネットディスクがある。インターネット上にフォルダを置いて、ここにアクセスすれば、この中のファイルや情報を共有して使えるというものである。無料であるので、保存できる容量が少ないこと、リンク付けや系統付けをしっかりとしたシステムにしないと、ファイルのみが入ったフォルダにすぎなくなり、機能しない、それぞれの検索システム上の制約が大きいなどといった問題がある。無料で安全に使えること、使いやすくリンクを設定できること、容量は小さく、情報量は多くできることを条件にして、どのような内容をどのように並べどのように加工してフォルダ内に納めるのか、誰でもがアクセスできるようにするのか、会員制にするのか、双方向のシステムにするか、提供するだけのシステムにするかといった検討を行った。インターネットディスク上のシステムの構築は、新しい試みでもあり、今年度は、インターネットディスクに研修システムを構築する試行の段階ということで、研修用の個々の教材の開発・作成については、対象を大きく絞り込むことにした。

表1

今年度のインターネットディスクを利用した研修システムの対象と内容

主な対象 小学校1年生を担当する若手教員

内容 教員全体で共通に必要なとされる内容

小学校1年生を担当し指導するために必要な内容

対象を小学校1年生を担当する若手教員とした理由は、1年生の初歩からの指導は、全ての学年を指導するための基本となると考えたからである。学級経営がうまくいかずに授業が成立しない中・高学年の学級では、この日常の生活習慣的な基本を児童が身につけていなかったり、学級のルールができていなかったり、児童理解の面で教員に課題があったりすることが多い。このような場合には、1年生担任でなくても本研究のシステムを利用し、振り返りを行うことができる。さらに教員にとって、1年生の指導は基本中の基本であるにもかかわらず、経験者が少なく、指導方法や考え方が伝わりにくいということもあげられた。

表2

1年生担任のためのデジタル資料の作成 内容リスト

4月分 1週間単位の週案簿を利用して日を追っての指導内容や準備情報の提示 リンクで詳細ページに

5月～ 月ごとの行事予定表でリンク設定 その時期ごとの指導事項を提示 リンクで詳細ページに

学習 生活科の栽培活動、音楽の指導 国語・算数・体育・図工・道徳等については今年度若干。教科を横断した総合的な授業の単元については、行事の中に挿入

生活指導 人間としての教育 清掃・学級の約束・身体計測・健康教育（手洗い かぜの予防 早寝早起き）人とかかわり

給食指導 情報教育 環境教育 児童理解と対応 小1プロブレム

保護者理解と対応 教師の仕事と勤務

水泳指導の2日前	水泳指導の流れ	シャワーの指導・指示	プールの約束 指導
	・三日前には ・二日前には ・一日前には ・当日の朝の準備と指導 ・当日の指導		
着替えの練習と用意・持ち物等の点検 着替えてプールサイドまで行き、コミュニケーションしましょう。	水泳指導には、前もっての準備や教員スタッフの打ち合わせが大切です。	シャワーやトイレの指導、プールサイドの約束、躰などは安全や衛生面で基本となる指導です。	実施案 第1回目 第2回目 第3回目 第4回目 検定 着衣泳

図1 水泳指導の資料の紹介(抜粋)

(静止画・動画・解説からなる。月行事からのリンクでこの資料を見ることがもできる。
さらに解説にはリンクが埋め込まれ、より詳細な資料を見ることができる。)

(4) 各会員によるデジタル資料の作成

会員がそれぞれの得意な領域や現在の職務上のかかわりから、研修用の教材や資料を作成した。1年生限定ということで、4月は、1週間単位の週案簿を利用した。毎時間実施する内容とその事前準備について見通しをもつことができ、より詳しく知りたい場合にはリンクをたどって、詳細で具体的な情報を得られるようにした。リンク先に添付したのは、実践の流れや手順、その様子の写真や動画、児童用の教材、及び解説である。運動会練習と行事のある5月、水泳のある7月は、その指導の手順が分かるように、各月の行事予定表で用意し、リンクを埋め込んで資料を用意した。表2のような内容を盛り込んだ。

(5) インターネットディスク上に研修システムを構築し実際の試行・活用。情報交換、修正。

今年度は、インターネットディスク上に研修システムを構築したが、許容される容量が小さくて試行のレベルに止まった。製作した研修教材は、およそ半年分の内容に止まり、未完成ではあるが、USB メモリなどに保存し実際に若手教員に活用してもらって評価情報を収集した。

5. 研究の成果と今後の課題

今年度は主な対象を1年生担任に限定しての開発と試行であったが、下記の成果が得られた。

(1) デジタルデータ化することで、長い間、多くの教師によって蓄積・改善されてきた学校教育実践等の知的財産を、いつでも使用したり見聞きできたりする形で、さらに作成者や利用者のコメントをつけ、解説型の資料として残し伝達することができる見通しを得た。

(2) 上記の資料は、1校に留まらず、インターネットディスクを活用することで、全国の教員が広く活用することができ、相互活用も図ることができることが分かった。今後、

修正や追加が可能な発展型の研修システムとして機能できる見通しをもつことができた。しかし無料インターネットディスクには限界や制約が多く、管理の面で課題が多いことが分かった。

(3) 開発を目指す研修システムは、若手教員の課題意識を大切にして具体的にすぐ活用できる内容を豊富に盛り込むようにした。しかし、単なる実践のノウハウを分類して提供するものではなく、教育観、人間観、児童観、情報教育観、社会人としての意識等、根本的な姿勢や内面に示唆を与え、人間としても教師としても自己成長を続け、それを楽しみ、さらに、社会の変化を感知し教育の内容や方法を自ら改善開発していかれるような、教員の成長を志向しているものでないと、本来の若手教員向けの研修システムとしては機能が果たせないという見通しを得た。これは、教員の面接や参加観察で情報を収集する中で気がついたことである。学級経営や指導がうまくいかない原因が自分にもあり、どこをどのようにしていけば、解決するのかといった意識が少ない教員も多かった。プロフェッショナルな教師を目指す心意気や留意点、方法を若干でも入れ込み提供することにより、目先の課題解決にばかり追われて、付け焼き刃的対処をしてしまう姿勢にも改善の風を送ることができると考える。

6. おわりに

若手教員や学校現場については前述のような成果が期待できる。一方ベテラン教員にとっても若者理解に結びつき、互いに学び合い生かし合う場になった。インターネットディスクを活用することで、全国規模で交流が展開できる見通しは得たが、技術的な面で制約があり、来年度以降の継続研究で解決したい。システム内の内容の充実と使いやすさについても今後深めていきたい。